

# 頓所好勝氏の思い出 1

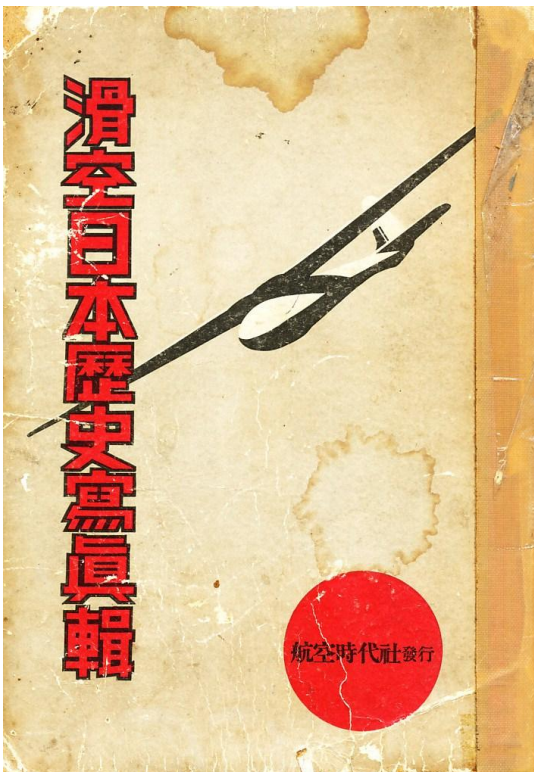
松本 陽一

## 1. 頓所式Ⅱ型マイウイングの開発のため発泡スチロール製模型によるテスト飛行

私が最初に頓所さんのことを知ったのは昭和18年、中学校の3年生の時であった。鳥取県立倉吉中学校の滑空部に入ってプライマリー「駒鳥」に乗って滑空訓練をしていた時です。中学校の滑空訓練の教官が召集を受けて軍隊に入隊されるときに航空時代社発行の「滑空日本歴史写真輯」をくださった。教官としては形見のつもりでくださったのだと思う。

その中に頓所1型ハング・グライダーの写真があった。頓所さんの名前はその時に知り、私たちグライダーにあこがれていた少年にとって頓所さんは神様のような存在であった。

滑空日本歴史写真輯 渡部一英著 航空時代社発行 表紙



滑空日本歴史写真輯 渡部一英著 航空時代社発行



終戦後模型グライダーづくり、昭和 35 年からラジコン操縦のグライダーに熱中して鳥取ラジコンクラブをハセ模型のおやじと一緒に作り、毎週日曜日には鳥取砂丘でグライダーを飛ばしていた。(鳥取ラジコンクラブは今年で 50 周年を迎えた。)

鳥取には昭和 15 年ごろからグライダークラブがあり、そこで育った大久保正一 1 級滑空士、石黒 1 級滑空士、川村 2 級滑空士もおられ、特に大久保さんは昭和 15 年大久保式ハング・グライダーを作って鳥取砂丘で飛んだ人である。ハング・グライダーのことで特に頓所さんとは付き合いが親密であった。

滑空日本歴史写真輯 渡部一英著 航空時代社発行



昭和 50 年ごろ頓所さんがⅡ型マイウイングを設計、製作されるにあたって無尾翼機の安定、操縦性能テストを鳥取砂丘でラジコン模型でやりたいので協力する人はいないだろうかと昔の滑空士仲間である大久保さん、石黒さん、川村さんに相談があり、ハセ模型のおやじが私のことを推薦したのだらうと思います。

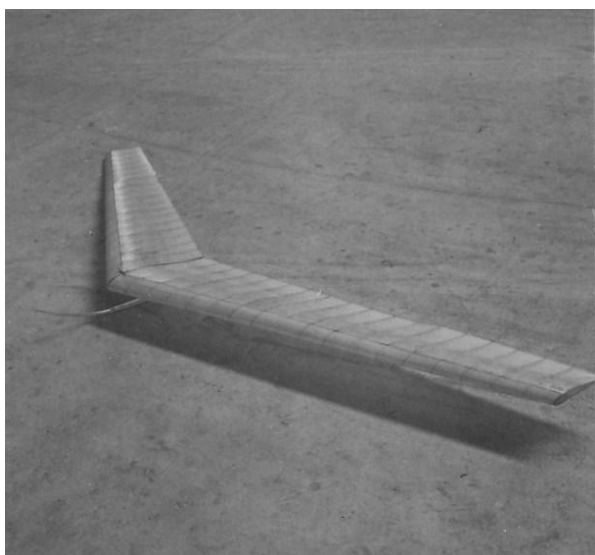
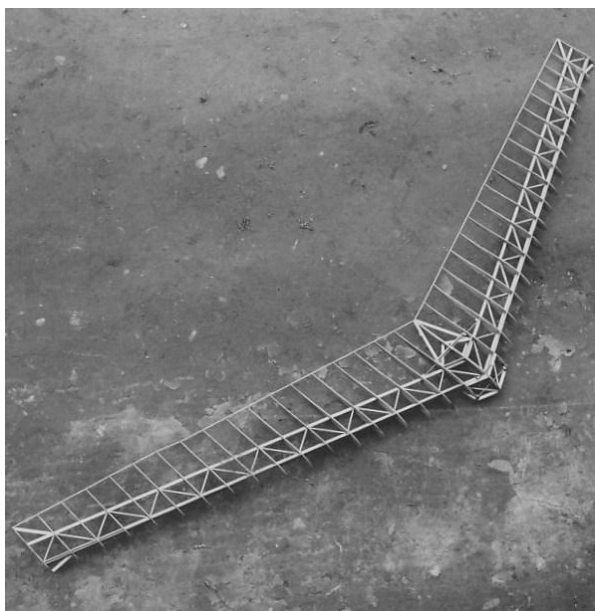
鳥取砂丘 中央部



鳥取砂丘 海岸部急斜面

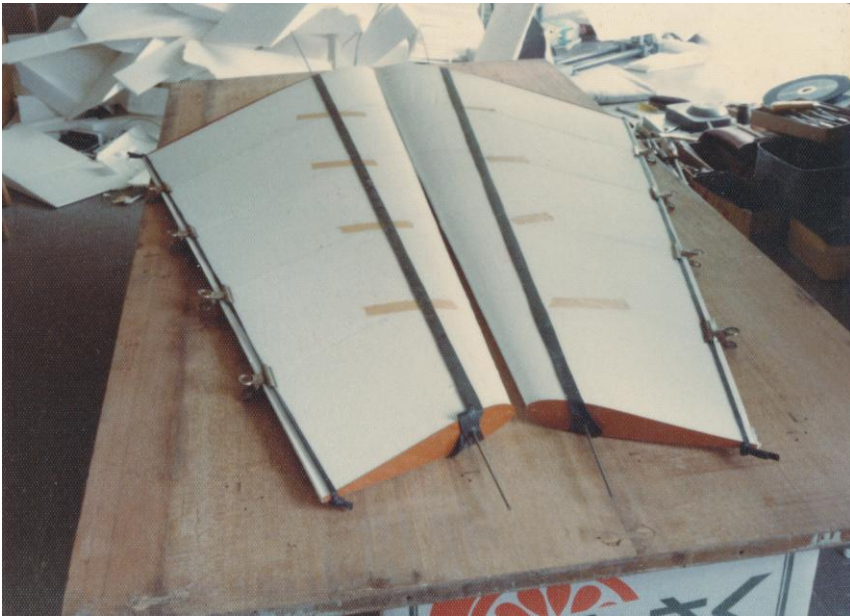
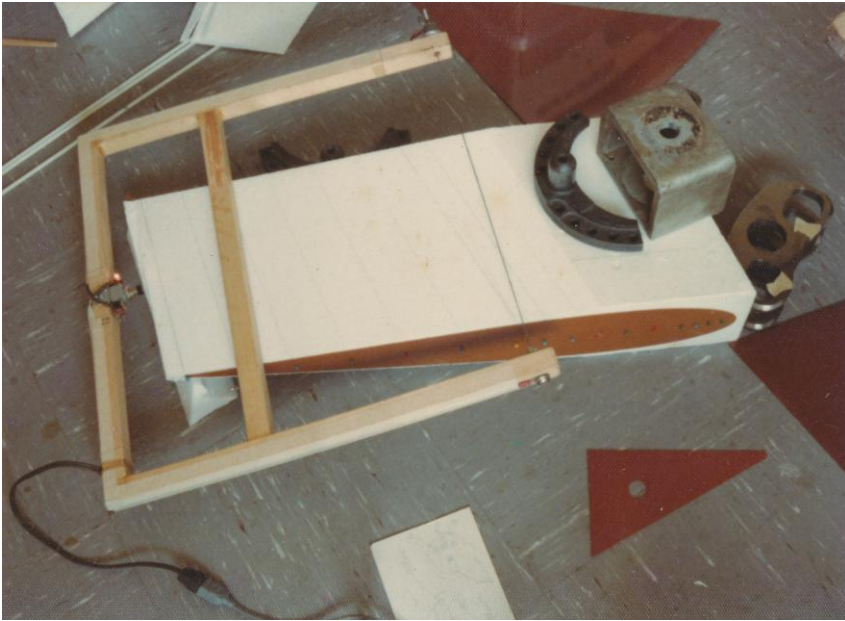


頓所さんは、最初檜の桁、バルサリブの模型を作り、次に発砲スチロールの3分の1模型、翼長3mの機体を作られました。発砲スチロールの機体を砂丘でテストするというので1975年鳥取砂丘に来られました。





## 発砲スチロール翼の製作 熱線で切り出す工程



初めて頓所さんに会った時の印象は、長身のやせ形で目の鋭いたくましい空で鍛えたスポーツマンという印象でした。この方が滑空日本歴史写真輯で見ていた方だなど、でも定年退職されて 60 歳超された方とは思えない元気のいい方だったです。

はじめの 1 年は安定性のテストで、緩斜面で手投げテストでした。次の年 1976 年は旋回させたりアップ、ダウンのテストも加わりました。

舵は翼端に上にだけ跳ねあがるエルロンとラダーを兼ねたラダロンと言われる小さい翼があり。左右一緒に操作すると上げ舵になるという説明でした。テストの結果は安定、旋回、舵の効きも上々で申し分なく旋回も高度を下げることなく回っていました。次はいよいよ実機の本番だと胸を躍らせ、期待したものでした。

毎年奥様も一緒にの同伴でした。当時 60 歳ぐらい何と仲のよい夫婦だと思いました。ご主人の趣味にご理解がある方だなど羨ましかったです。

(次は実機マイウイングの初飛行の思い出を書きます。)